



2016 Free The Children Japan Annual report

フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 2016 年度年次報告書

「世界は変えられる」子どもがそう信じられる社会に WE Free The Children



認定 NPO 法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

Our Story

1995 年、カナダに住む 12 歳のクレイグは学校に行く前にマンガを読もうと新聞を手にしたところ、ある記事に目が留まりました。

「児童労働の廃絶を訴えていた 12 歳のパキスタン少年、射殺！」

～パキスタン人のイクバル・マシーは、とても貧しい家庭の出身で 4 歳のとき、両親から引き離され絨毯工場に売られてしまった。1 日 10 時間以上の労働を強いられていたが、工場から脱出でき NGO の助けで児童労働反対をうったえる活動家として世界をまわっていたが、母国に戻った時何者かに殺害された。～

クレイグは、同い年のイクバルの死や、世界に奴隷のように働かされている子どもがいることにショックを受け、同じ子どもの問題なら、自分たち子どもで取組もうと「Free The Children (FTC)」を設立しました。

その後クレイグは実際に児童労働の現状を学ぶため中学 1 年生になると南アジア 5 カ国をまわる 50 日間の旅に出ました。そこで、マザーテレサやノーベル平和賞を受賞したカイラシュ氏に出会いました。

そして、クレイグの創造をはるかに超える過酷な環境で働くたくさんの子どもたちのことを世界に伝えるため、カナダに帰国後、旅の体験記を本にまとめたりスピーチをして世界をまわるようになりました。

現在、FTC はカイラシュ氏、マララ氏をはじめ多くの著名人と共に、全ての子どもが教育を受けられるように一緒に活動しています。フリー・ザ・チルドレンの活動は世界的に認められ、創設者のクレイグは今まで 3 回ノーベル平和賞にノミネートされています。

1997 年、アメリカの NGO に所属していた中島早苗（現代表）が FTC とクレイグの活動を知り団体の理念に賛同し日本に紹介しようと帰国後 1999 年に日本支部を設立しました。以後、日本の子どもたちが活動に参加するようになり、現在 1,000 人以上の子どもたちがメンバーとなって国際協力や国内の子どもを巡る課題に取組んでいます。その活動は様々で、児童労働を伝えるためにウォークを企画し実施する子どもたち、開発途上国の働く子どもの状況を学び、支援するため手作り雑貨やお菓子を販売しその売り上げを世界の子どもの教育事業に寄付をしたり、世界の貧困問題を伝える動画を作って配信したり、支援先を訪問する海外ボランティアツアーに参加したり、いじめの問題に取り組みスピーチをして子どもの権利についてうたえたり、自分の特技を活かして社会問題を解決するためのアクションを起こしています。



Our Vision

世界中のすべての人々が誰一人取り残されることなく、心もからだも健康で、自身の夢や希望を実現でき、国籍・宗教・年齢・性別・文化に関係なく、互いを認め合い、互いに勇気づける多様性のある社会。

Our Mission

上記のビジョンを達成するために、子どもの権利を守り、子どもの可能性を引き出すことが大切だと考えていることから

ふたつの「Free」を目指します。



A note from Chairperson of the Board

代表挨拶

2016 年度のハイライトとしては、伊藤菜々美と石田由香理の 2 人を新たなスタッフとして迎え、事業を展開したことがまずあげられます。FTCJ のミッションの一つである「『子どもは世界を変える力がない』という考えから子どもを解放する」を達成するために、学生時代から FTCJ の活動に関わり、カナダのフリー・ザ・チルドレンでスタッフとしての業務実施経験や企業での勤務経験を活かし、更なる「子ども活動応援事業」及び「アドボカシー事業」の拡充のため、伊藤菜々美をスタッフに迎えました。その結果、様々な地域や学校やでの出張講演、ファシリテーターの育成、日本とカナダで開催するリーダーシップトレーニングキャンプ、フィリピンの支援先を訪問し現地の子どもと触れ合いながらボランティアを体験するスタディツアーを通じて、子どもや若者が主体的に社会問題に取組む環境作りを行いました。

FTCJ のもう 1 つのミッション「貧困や児童労働から子どもを解放する」を実現するため、学生時代に FTCJ のフィリピンスタディツアーに参加したことがきっかけで、フィリピンの視覚障害者未就学問題について国内外で研究を重ね、フィリピンで NGO の駐在職員としての経験を持つ、石田由香理を 4 月より本事業の主担当とし、4 月から「フィリピン障害者支援事業」を立ち上げ新しく事業をスタートしました。新事業立ち上げに伴い資金調達キャンペーンを 9 月以降に行ったところ、多くの方がご寄付にご協力下さいました。特に、Readyfor というクラウドファンディングを通じた寄付キャンペーンでは、新しい寄付者の方や組織の方々となることができ大変励みになりました。このつながりは金銭的なことだけでなく、事業を展開するうえでも質の良い効率的な事業展開に活かしていけることと思い、2017 年度以降の事業実施につなげていきたいと考えております。

その他の大きな動きとしては、4 月 14 日以降、何度も大きな揺れに襲われた熊本に対し、緊急復興支援を行いました。避難所での食料品や生活用品を支給する支援物資の提供と、度重なる余震で不安な状況に置かれている子ども

の状況を把握し、子どもたちの心のケアにつなげる「くまモン」のぬいぐるみを渡しながらかん守る活動「くまモン」プロジェクトを行いました。支援物資の提供については、長年団体の理事として活動する永野恵理の呼びかけや熊本で活動するメンバー等が主導し、多くの方々のご協力で実現しました。また、被災した入院中の子どもや保育園、幼稚園に通う子どもたちへの心のケアにつながるくまもんプロジェクトについては、FTCJ 熊本グループを立ち上げた津田美矩さんやサポーターとして活動する岩坂省吾さんなど熊本の仲間を通じてのネットワークと協働することで行うことができました。

2016 年度を振り返り、多くの新しい方々との出会いがあり、新たなご協力を頂いた御陰で活動に取り組めたこと、同時に、今までに繋がっていた方々からの更なるご支援やご協力があったからこそ、事業を実施できたと痛感しております。ご協力下さった皆様に改めてお礼申し上げます。そして、多くの方と連携しながら、団体のビジョンの実現に向けた質の良い事業活動と組織運営を進めていく所存です。引き続きどうぞ宜しくお願い致します。

代表理事 中島 早苗



TABLE of CONTENTS

もくじ

2	フリー・ザ・チルドレン・ジャパンとは		
4	A LOOK BACK AT 2016 ― 2016 年度を振り返る		
6	子ども主体事業・子ども活動応援事業	12	自立支援事業
10	アドボカシー事業	17	緊急支援
		18	会計報告
		19	ご支援・ご協力いただいたみなさま・メディア掲載

A LOOK BACK AT 2016

たくさんの方々のご支援によって、国内外の子どもたちへの支援を行うことができました。
みなさまからの温かいご支援、心より感謝申し上げます。

Members

新規メンバー登録数：

136 人

メンバー合計：1,605 人

(2016 年 12 月末)



好きなこと×国際協力。

自分の好きなことや特技を活かして、全国でメンバーが活動しました。





出張授業・ワークショップ実施回数

67 回 55 カ所訪問

参加人数：**7,580 人**



各地で出張授業・ワークショップを実施しました。



フィリピン・インド・ケニア・日本で
自立支援事業を実施しました。



Donation

2016 年度ご寄付・募金合計

20,465,976 円

▶子ども主体事業・子ども活動応援事業

子どもたちのやってみたいという気持ちを引き出し、社会問題を解決するために行動する子どもたちの育成やサポートをしています。

Member Support

メンバーサポート

メンバー登録をした子どもたちの活動サポートやイベント・キャンペーンの情報を発信、オフィスのある東京以外の地域でも自主的に活動できるよう、学校や地域での活動サポートを行っています。2016 年度はチーム活動をリニューアルし、フィリピン・インドチームが発足し活動を行いました。

チーム活動

フィリピン・インドチームが発足。中高生メンバーを中心に 36 名が集まり、東京の事務局を拠点として活動を開始。関心のある国で起きている問題について調べ、発表しました。フィリピンチームはフィリピン障害者支援事業支援として街頭募金や、グローバルフェスタでパネル展示、フィリピンの働く子どもたちの経験ができるワークショップを実施しました。

また、10 月からは毎年実施している、チョコレートを通じて国際協力を行うチョコレートプロジェクトとフィリピンチームが協働し、寄付付きチョコレート Ngiti の商品開発から広報、イベント等での販売を実施しました。



参加者の声

私は学校の語学研修でフィリピンのセブ島に行き、学校で勉強することが困難な子どもたちと交流するという経験があったことから、フィリピンチームに参加しました。



フィリピンチームや FTCJ での活動を通じて、色々な話を聞くことや人と意見交換することが大好きになりました。今では「国際問題」に限らず興味のある講演会やプログラムに参加するなど、積極的に行動できるようになりました。

そして今は広報力をどうやって伸ばすかと考えていて、より多くの人にフリー・ザ・チルドレン・ジャパンや「国際協力」の活動を知ってもらい、興味を持ってくれるように貢献できるようになりたいです。(中学3年生)



メンバーサポート

メンバー登録をした子ども達へイベントや活動の情報を定期的に流したり、電話やメール、オフィスでの対応を通じて子どもメンバーが主体的に活動できるようサポートを実施しました。

新しく活動を始めるメンバーのサポートとして、メンバーとの交流、団体の紹介やボランティア作業を通じて、その後のアクションにつながるよう、毎月 1 回ウェルカムデーを実施しました。

また、学校や地域で活動するグループの活動サポートも行い、書き損じはがきや一円玉募金、物資寄附など様々なアクションが見られました。



Net Working

外部ネットワーク

様々なセクター、組織と連携・協働しネットワークを構築することで、FTCJのビジョン、ゴールを実現することを目指しています。

児童労働ネットワーク（CL ネット）

5月5日～7月7日にかけて「ストップ！児童労働キャンペーン 2016」を実施しました。情報発信は Facebook や Twitter 等の SNS を中心に行い、レッドカードを掲げて写真を撮影し、同時にアクションを表明する「レッドカード+1 アクション」と名称を変え参加を呼びかけ、総勢 9,518 人が参加しました。

キャンペーン賛同イベントとして、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの関西メンバーが中心となって 6/5 大阪の中心ストリートの御堂筋にて、「めっちゃ学校行きたいねん！御堂筋ウォーク 2016」を実施、また、児童労働反対世界デーの 6/12 までの 1 週間を「児童労働反対世界」キャンペーンウィークとして、Youtube で私たちにできるアクションのヒントとなる動画を作成、配信しました。

5月13日～17日には2014年にはノーベル平和賞を受賞したインドの人権活動家カイラシュ・サティヤルティさんを招聘しイベントや講演会を実施しました。



JNNE / 世界中の子どもに教育をキャンペーン

4月26日～5月31日にかけて途上国の教育の現状や教育援助の不足について学ぶ「世界一大きな授業」キャンペーン実施され、47都道府県の764校・グループ、56,267人が参加しました。

5月25日、衆議院第一議員会館で、7年目となる「国会議員のための世界一大きな授業」を開催した。当団体のメンバーの高校生7名が「先生」、国会議員5名（ほか代理6名）に対して、途上国の子どもの教育をテーマに授業を行った。JNNEからはNGOの提言などを伝えました。また、7月20日には牛尾国際協力局参事官地球規模課題担当と面会し、日本で「世界一大きな授業」に参加した56,267人を代表して、全国から寄せられた1,146通（約7,000人分）の「首相・外務大臣への手紙」を手渡した。



日比 NGO ネットワーク

日比の子どもやユースを主な対象として、フィリピンの貧困に直面する子どもたちが抱える問題を学び解決に向けて考えるフォーラムを開催しました。

フィリピンから元児童労働者や性的虐待被害者、現地 NGO スタッフの活動家3人を招聘し、それぞれの経験やフィリピンで起きている問題について、現地の NGO の活動などの紹介後、参加者でグループディスカッションなどを行いスタッフ参加者含め150名が参加しました。

教育協力 NGO ネットワーク（JNNE）：開発途上国の子どもへの教育支援を行っている NGO によるネットワーク。登録団体間での情報交換、勉強会を実施しています。また、外務省との意見交換や政策提言なども行います。世界の全ての子どもへの良質な基礎教育提供を目指し、世界の EFA（万人のための教育）運動とつながって国内でのアドボカシーや政策提言などのキャンペーン活動を行っています。

児童労働ネットワーク（CL ネット）：児童労働の廃絶に向け、勉強会、キャンペーンなどを行っています。児童労働問題に取り組む NGO、労働組合、その他非営利組織、個人で構成されています。

日比 NGO ネットワーク（JPN）：フィリピンでの開発支援活動を行う日本の NGO とフィリピンの NGO によるネットワーク。フォーラムや外務省との懇談会、団体間での情報交換を実施しています。参加しています。賛同団体としてネットワークに参加し、活動を実施しています。

Take Action Camp

子どもや若者を対象にした合宿型リーダーシップトレーニング・プログラムです。子ども達自身が、「子どもには世界は変えられない」という考えから Free にし、子どもや若者が社会問題や国際協力活動に取り組むためのやる気とスキルを習得できるようなプログラムです。



7/23～8/8 にトロントで実施している Take Action Camp に日本の子どもや若者が参加できるよう企画運営を行い、より深い学びにつながるよう初めて 2 週間コースを実施。日本からは中学生 2 名が参加しました。

多くの参加者はカナダや近隣国からの中高生で、英語漬けの毎日。地域での問題について、世界で起きている問題について、ワークショップを通じて学び、それぞれの意見を話して、考えを深めたり、チームワークを深めるアクティビティをしたり、たくさん考え、話し合い、体を動かしたキャンプでした。



参加者の声

とにかく英語が大好きでとりあえず行ってみよう！
という気持ちで挑んだ二週間のテイクアクションキャンプ。
初めてみんなが集った時は、みんなぎこちなくて、
見知らぬ人の集まりでした。



でも、やっぱり世界で何かを変えたいって思っていることは一緒にみんなそれぞれバラバラの情熱を持っているけれどたくさん話し合い、アクティビティを通じて、それをみんなで見つめ合える。話し合いをしている時、どんな意見を言おうと、みんなじっくり否定せずに聞いてくれて、受け入れてくれるんです。普段学校でよくある固定的概念やら、否定的な意見やらが無いんです。だから自信を持って意見を言えたり、恐れずに前に出ることができたり。

その場その場で感じることは難しいかもしれないんですけど、実際日本に帰って来てキャンプを思い出すと、すごい濃い時間だったなって本当に本当に実感しました。自分を信じるって、自分から前に出ること、相手を認めるって、自分が自分であるって、全部すごく大切だと思うんです。

キャンプではその全てを学ぶことができました。これから、キャンプを通して学んだことをたくさんのことに生かして発信していきたいです！

(中学 1 年生)



春は5月3日～5日に東京都世田谷区で、夏は8月16日～19日に千葉県柏市でテイク・アクション・キャンプ・ジャパンを実施しました。アクティビティやワークショップ、ディスカッションで自分の人生を振り返る、チームワークスキルをアップする、国内外の社会問題について知る、自分の考えを深める、アクションを実際に起こす、今後のアクションプランを考える、その想いを伝えるというプログラム内容で、5月のキャンプには小学生から高校生まで19名が参加、8月のキャンプには30名が参加しました。日本のキャンプでは、参加者に年齢の近い大学生がファシリテーターとして参加し、子どもたちの学びや気づきのサポートをしてくれました。



参加者の声

日常生活・普段の学校生活ではなかなか体験できないようなことが多く、勉強になりました。
1番印象に残ったのは、2日目のランチです。
食事を通して「貧富の差」を実際に体験することで、
"自分とは違う人たち"の気持ちが理解できたような気がします。

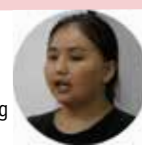


家で過ごすGWの3日とは比べ物にならないくらい、とても貴重な体験になりました。新しい仲間と出会い、いつもとは違う様々な経験をして、新しい視点や考え方もたくさん収穫できました。(高校3年生)



ファシリテーターの声

I am from Mongolia. The time in the camp was so amazing! I did develop and practice facilitation skills, while also exploring social and environmental issues in world. Discussing with children was fun and I learned so much new things from them. Every day is unique, with a variety of special activities. (大学3年生)



▶アドボカシー事業

Speaker and Workshop

出張授業・講演会・ファシリテーター養成プログラム

全国の学校や企業、イベントなどへファシリテーターを派遣し、生徒などの参加者の方々が社会問題を身近に感じ「自分は無力だ」という考えを捨て、「自分にもできる」という自分の可能性に気づくことのできるプログラムを提供しました。また、出張講演に同行するファシリテーターの育成にも取り組みました。

助成協力：日本財団、日本労働組合連合会 愛のカンパ、世田谷区国際平和交流基金、モバイルコミュニケーション・ファンド、電通育英財団、庭野平和財団
※事業年度変更に伴い 2015 年度と 2016 年度をまたがる助成金があるため、2 年分を掲載しています。

2016 年度 出張授業 67 回、55 校所訪問、参加・対象人数：7,580 人



✓ PICK UP ✓

都立世田谷総合高校

今年度、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンでは、都立世田谷総合高等学校の連続授業を受け持たせて頂きました。9 月から 11 月までの全 5 回授業で、毎回 40 名の参加者でした。

- ◆第 1 回 自分を知らう！仲間を知らう！
- ◆第 2 回 世界を知らう！① - 世界の現状・格差を考える -
- ◆第 3 回 世界を知らう！② - 世界の子どもの生活を考える -
- ◆第 4 回 アクションを起こそう！
- ◆第 5 回 アクションプランを作ろう！発表しよう！

今回のクラスは、それぞれ違うクラスから集まった生徒たちだったため、まずは仲間をしり、そして自分を知るところから始まり、ワークショップやアクティビティを通じて世界や子どもの権利について学び、実際にアクションを起こしました。

第 4 回のアクションとして、学校近くの商店街で街頭募金を行いました。街頭募金では、それぞれが考えてきた、なぜ支援が必要なのかをもとに、伝えたいメッセージをカードつけ、チームのオリジナリティあふれた募金箱・ハガキ回収 BOX を持ち、呼びかけました。

街頭募金の当日はあいにくの雨でしたが、寒い中、声を出して頑張りました。街頭募金で道行く方に声をかけをし、商店街の店舗さん、小学校にもご協力いただきその後も募金箱を置かせて頂来ました。
募金総額：12,024 円（期間：2016 年 10 月 28 日～2016 年 12 月 9 日）
ハガキ回収枚数：77 枚（期間：2016 年 10 月 28 日～2017 年 2 月 3 日）

アクションプランの作成では、自分の好きな事を活かして、わくわくできるアクションを考えるワークショップを行いました。世界について調べて、まずは身近な人へ伝える、いろいろな国の人に協力をお願いして、1 つの曲を作り、youtube で配信する！！、SNS を使って、外国の友達を作り、偏見を自らなくすなどのアクションプランができ、アクションプランの 1 か月以内に行う事を実行し、1 か月後に報告してくれた生徒さんもありました。

▶参加者の声

- ・色々な国で問題が起こっているのは知っていたけど、ここまで深く取り組んだことはなかった。深く考えられてよかった。
- ・世界に飛び込むきっかけが作れたと思います。今までは気づいてもなかなか踏み出せずに通り過ぎていたのですが、この授業で、もっと積極的になろうと思うようになりました。



2016 年度 出張講演先

▶小学校：3 件

板橋区立徳丸小学校、千葉市立幸町第三小学校、大阪市立南港桜小学校

▶中学校：15 件

桃山学院中学校高等学校、横浜市立藤の木中学校、文京区立音羽中学校、横浜市立平楽中学校、横浜市立岩井原中学校、相模原市立相原中学校、川崎市立宮内中学校、町田市立真光寺中学校、加藤学園暁秀高等学校・中学校、深谷市立深谷中学校、世田谷区立桜丘中学校、横浜市立泉が丘中学校、千代田女学館中学校・高等学校、川村中学校・高等学校、東京学芸大学附属世田谷中学校

▶高等学校：18 件

桃山学院中学校高等学校、立命館宇治中学校・高等学校、栃木県益子芳星高等学校、川口市立泉陽高等学校、栃木県立小山市城南高等学校、聖ヨゼフ学園高等学校、横浜アイエンスフロンティア高等学校、加藤学園暁秀高等学校・中学校、千葉県立印旛明誠高等学校、都立世田谷総合高等学校、神奈川県立弥栄高等学校、青森南高等学校、大阪暁光高等学校、神奈川県総合高校、神奈川県立有馬高校、大阪府立能勢高校、立命館守山高校、大阪府立能勢高校

▶大学・専門学校：5 件

明治学院大学、法政大学、上智大学、神戸女学院大学、日本歯薬専門学校

▶その他団体、イベント：14 件

ワン・ワールド・フェスティバル、伊丹ミモザ国際交流デー講演会、東京あけぼのロータリークラブ、フィリピンスタディツアー報告会、西宮市人権教育推進課、フィリピンから来日した当事者とする 日本にもあった!?「人身取引問題」とは?、「元ストリートチルドレンが語る開発途上国の子どもたち〜フィリピンの現地リーダーを招いて〜」、JICA 関西、日本子ども NPO センター主催セミナー、グローバルフェスタ、CRC フォーラム大阪分科会貧困脱出ゲーム〜君の権利は守られているか〜、フィリピンの視覚障害者の現状と障害者との共生社会について考える、ワンワールド・フェスティバル For Youth、ファシリテーター養成プログラム

Public relations and Events

イベント出店・物販・広報・資料開発

助成協力：日本財団、年賀寄付金 ※事業年度変更に伴い 2015 年度と 2016 年度をまたがる助成金があるため、2 年分を掲載しています。

グローバルフェスタやワン・ワールドフェスティバルなどに出席し、団体紹介や世界の子どもたちの現状を伝えるパネル展示、フェアトレード商品の販売を行いました。

イベントではメンバーだけでなく、たくさんのボランティアさんに支えられブースの運営をすることができました。



◇(左上) 今日は何の日? 国際デーから世界のことを考えよう! WEB で無料公開中。

◇(左下) 写真で覗いてみよう - 世界で働く子どもたち オンラインストアにて販売中。

◇(右) 学校教員向け冊子。

その他教材の改定や作成を行い、Youtube にて動画教材を配信しました。

◇ 2015 年度年次報告書

ニュースレター年 3 回、アニュアルレポート 1 回 600 部発行。

メールマガジン 2 回発行、登録者約 4,000 人。

WEB ページは随時更新、1 日平均 700 アクセス。

◇ ニュースレター

International programming

事業実施国一覧

自立支援事業では、フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの目的の1つ「国内外の貧困や差別から子どもを Free(解放) する。」の実現に向け、権利が奪われている開発途上国の子どもたちとその家族を支援しています。

ケニア ..p16

<事業内容>

収入向上支援



インド ..p16

<事業内容>

- 1.CCD マクタニール養護施設運営
2. カルタナ村自立支援



スタディーツアー

<事業内容>・フィリピン ..p17



モンゴル ..p17

<事業内容>

草の根・人間の安全保障無償資金協力
フォローアップ事業（外務省 委託事業）

日本 ..p17

<事業内容>

熊本緊急支援



フィリピン ..p14

<事業内容>

1. 先住民族の子どもへの教育支援
2. 性虐待や刑務所から救出された子ども支援
3. ミンダナオ台風被災地公立学校農業科支援
4. バリオン小学校建設
5. 障害者支援

Philippines

フィリピン



先住民族の子どもへの教育支援

2014 年より台風被害を受けているミンダナオ島のピナンシャン村に住む台風被害を受けた中等教育を受ける子どもたちを対象に現地パートナー団体 KPAC (Konkokyo Peace Activity Center) を通じて通学支援を行っています。

2016 年度は手紙で交流しながら子どもを支援する文通プログラムを通じて保護者会和学校とのミーティングミーティングを実施、子どもたちに体操着の配布、家庭訪問や学校訪問をして通学のフォローアップを行い、この支援を通じて 19 名の生徒が中学校を修了しました。



性虐待や刑務所から救出された子ども教育支援

ルソン島サンパレス州オロンガポに位置する現地パートナー団体ブレダ基金を通して、性的虐待・搾取を受けた少女や、路上や刑務所から救出された少年への教育、貧困地域への自立支援活動を実施しています。

2016 年度はフェアトレード商品の購入を通じて支援を行い、保護している子どもたちの学習支援、セラピーやカウンセリングを実施しました。



ミンダナオ島台風被災地 国立学校農業科支援

助成協力：一般財団法人まちづくり地球市民財団

ミンダナオ島ダバオ・オリエンタル州バガンガ地方バクリン村にあるバクリン公立ハイスクールに通う 11 学年 50 人の学生と、3 人の教員を対象とし、学校に通う生徒が将来持続可能な農業を営めるよう専門知識や技術（有機農法及び持続的農業手法）を習得し農家として自立するための農業科支援を開始しました。

この地域は特に大型台風の被害が大きかった地域の一つで、土砂災害や突風、洪水によって農作物や家畜が被害を受け未だに住民は収入手段を断たれ貧困状況にあり、災害から 2 年経った今でも住民が利用できる資源やサービスは非常に乏しく限られておりまだ復興途中にありました。こういった背景からバクリン公立ハイスクールと現地パートナー団体 KPAC と連携し、事業実施に至りました。

2016 年度は自治体などの関係者と本事業実施に向けての話し合いをし、事業開始に向けて調整を行いました。その後、教員向けのスキルアップ研修を実施し効果を図るために研修を受けた教員は早速生徒向けに授業を実施しました。



生徒は苗木の植え方や栽培の方法、除草や害虫駆除、収穫などの農業に関する知識を習得、校内の農地に苗木を植えるなど実習や、調理実習で収穫した農作物を調理し栽培した生徒たちが実際に食べるなど、座学だけでなく実習でも農業の知識を習得しています。

レイテ島バリオン小学校建設

特別協力：桃山学院高校 School By School (SBS)

助成協力：日蓮宗 あんのん基金

度重なる台風被害を受けたレイテ島のオルモック市ラブラドル地区にあるバリオン小学校で 2015 年 12 月より現地パートナー団体 KPC を通じて学校建設事業を実施し、助成金やご寄付以外にも、クラウドファンディング Readyfor にて資金調達を行い、2016 年度は学校建設事業、備品の設置を行いました。

2016 年 1 月から現地パートナー NGO を通じて教育省、支援先のバリオン小学校や自治体との連携・協働を行い、建設業者との何度もやりとりがありました。3 月より工事を開始し、7 月末に校舎が完成しました。

8 月には、校舎完成お披露目開設式が開かれ、式典には、教育省担当職員、隣の地域の小学校の校長先生、PTA、エンジニアの方々と、日本からはフリー・ザ・チルドレン・ジャパンとともに、この学校建設のために何年にもわたって募金活動に取組んだ桃山学院高校国際協力クラブ (School By School) の顧問の首藤先生なども出席し、皆でお祝いをしました。バリオン小学校に通う生徒さんたちが歌やダンスを披露してくれて、大変ありがとうございました。9 月には机やイスなどの備品を設置しました。

バリオン小学校には、現在約 250 名の子どもたちが通っています。10 年前は 11.5% もの子どもが中途退学をしていましたが、先生や地域の職員が家庭訪問をして教育の重要性を伝え、今では 2% 弱までに減りました。それでも、貧困や家庭の事情で中途退学を余儀なくされる子どもたちがいるので、この現状を変えて、すべての子どもが小学校に通えるような小学校にしたい、そのために新しい校舎は子どもたちのやる気をサポートするものです、と校長先生は話されました。

障害者支援

フィリピンの視覚障害者が自立のために基礎教育及び中等教育を受けられるよう支援を行いました。

背景として、フィリピンには盲学校はたった 2 校しかありません。12 年生、つまり高校卒業までの教育を提供しているのは、フィリピン国立盲学校のみです。地方ではとくに、障害者理解が進んでいないことや学校の数も少なく通学距離が長いことなどが理由で、視覚障害者が教育を受けることが難しいという現状がありました。

生まれた地域や貧富の差に関係なく、視覚障害児童・生徒たちが職業スキルを身に付けられるように、大学進学のを諦めずに済むように 2016 年度はフィリピン国立盲学校と連携し現地での調査や討議を行い盲学校の寮の屋根修繕とスクールバス購入プロジェクトを開始しました。

日本国内では、視覚障害児童の課題や現状を伝える講演会や出張授業を実施、そしてプロジェクトの資金調達をクラウドファンディングサイト Readyfor を通じて 11 月から約 90 日間実施し、たくさんのメディアで取り上げていただいたほか、多くの方にご支援いただきました。

また、クラウドファンディングに合わせて視覚障害者の暮らしを紹介する動画を作成し、Youtube で配信しました。

2017 年度の工事中工やスクールバス購入に向けて準備を進めています。



▶海外事業

India

インド

CCD マクタニール養護施設運営支援

現地パートナー団体 CCD(center for Communication and development) を通じて、路上や児童労働などから救出され施設で生活する子どもと CCD が支援する貧困家庭で暮らす子どもが学校に通え、栄養ある食事で健康に暮らせるように、手紙を通じて交流しながら子どもを支援する「文通プログラム」を通して集った資金やその他指定寄付を使い支援を行いました。

具体的には学校に通うために必要な制服や文房具、ワークショップ教材費や、食費の提供、健康医療支援プログラムのために支援金を活用した。また、施設では美術や体育などの情操教育を通し、より豊かな心身の発達を育てています。



カルタナ村自立支援 - 教育支援

特別協力：株式会社チヨダ

インド北西部のラジャスタン州カルタナ村で自立のための教育支援を実施しました。林や丘、山岳部、谷あいの耕作地からなる起伏ある地形となっているカルタナ村には、1400 人が暮らしています。経済的に発展を続けていますが、地域は未だに、絶対的貧困率や非識字率の高さなどの難題に直面しています。

カルタナ村の、村人の大半が一日 2 ドル以下で暮らしており、五割以上の男性、八割の女性が非識字者、村の九割の世帯に、トイレなどの衛生処理設備が設置されていないという現状です。

2016 年の夏から、この村で小学校建設を開始し学校の敷地内にはトイレと手洗い場を同時に設置するよう計画をしています。支援事業を行っていく中で、村人の生活にも変化が起き始めています。より多くの生徒が学校に通い、学力の向上や成績の向上、そして小学校の卒業率の向上が見られるようになりました。



Kenya

ケニア

自立支援－収入向上支援

ケニアの農村貧困地域で暮らす女性が知識や情報やスキルを身につけ、他のコミュニティメンバーと協力し、子どもに頼ることなく、生計維持のための収入を得られるよう支援するためのプログラムを実施しています。1400 人もの女性の参加者は、ファイナンシャルリテラシーやビジネススキルやマイクロファイナンス、リーダーシップ、問題解決能力に関するトレーニングを受けます。

その他にも Me to We Artisan で販売しているアクセサリや手芸品のマサイ族に代々伝わる技法を用いて手作りしています。伝統手芸を受け継いでいるのと同時に、それを通じて持続可能性のある収入源を得ることができ、彼女らを、家庭や地域を支える担い手にしています。

2016 年度は、中高生メンバーが中心となって企画・販売を行うチョコレートプロジェクトで開発された寄附付きチョコレートやマサイ族のお母さんたちが手作りしたアクセサリの収益で、収入向上のための研修を実施しました。



WE Story from Kenya Ms. Daisy



デイジーは努力家な25歳です。高校を卒業していませんが、土地や、ヤギや鶏、牛などの家畜をしっかりと管理し、切り盛りしています。そして、妹の高校卒業に尽力した姉としての顔も持っています。

八人の兄弟の一員として生まれたデイジーの家庭は貧しく、デイジーを高校に行かせる余裕はありませんでした。10代で結婚し、農業労働者として働きました。デイジーも、地元の他の女性と同じように、貧困に苦しんでいました。しかし、デイジーが二十歳の時、WE ヴィレッジ（フリー・ザ・チルドレンの自立支援）の支援が始まり、デイジーも仲間の一員として活動を始めました。

スタッフがワークショップを開き、グループの参加者の状況をチェックしていきます。参加者に、貯蓄と、お金を使うことの大切さを教えて行きます。毎月少しずつ基金にお金を貯めていき、年に一回貯めてきたお金を受け取って実際に使えます。

デイジーに基金からお金が支給された時、彼女は紅茶を購入し、ミルク風マサラチャイをつくり、近所の農家に販売し始めました。紅茶は好調に売れ、紅茶の販売から得た利益を資金に小さなお店を開きます。そしてそのお店での販売を通じて、更に多くの利益を得ました。

デイジーはそこから更に躍進します。お店の販売で得た利益を資金にして、ヤギを数頭購入したのです。ヤギの乳から取れたミルクはお店でも販売された他、デイジーの娘の飲み物にもなりました。資金は尽きることはなく、デイジーはヤギを手放し、より高価な牛の家畜に買い替えました。

デイジーは妹たちに、自分が得られなかったものを授けることを決意します。高等教育です。妹の内の一人は、現在高校に通っています。未っ子の妹も、高校に進学させる予定です。「私の二人の妹は優秀な生徒なんです。医者や教師になれると思います。母もとても喜んでます。」デイジーは語ります。

デイジーは、WE ヴィレッジが支援した Motony 村の貯蓄貸付組合にも加入しました。組合では、デイジーのような村人が、自らファイナンスをコントロールできるようエンパワメントしています。デイジーは、16人が在籍するグループ（12人が女性、4人が男性）に属しています。このグループのメンバーは定期的ミーティングを開いています。貯蓄し、ローンを組み、そのお金で各個人がやっているビジネスに必要な資金などを投資しています。ローンは利子をつけて返済します。最も多く貯蓄できた人が、最も高額の資金を借りることができます。それを実行できている人物こそが、デイジーなのです。

グループのオーガナイザーを務めて二年になるダニエルは、デイジーをとても評価しています。

「デイジーはグループの中で最年少ですが、最もよく努力しているメンバーです。デイジーは大変高額な貯蓄をしているので、グループの中では最高額の配当金を得ています。」

デイジーは最近、コーンの栽培をすることを目的に、3エーカーの土地を購入しました。近所のガソリンスタンドに勤めている夫と共に、コーンの種を植えました。今後は、家を建てるために土地を購入する計画を立てています。そんなデイジーの夢は？「娘に、私が受けられなかった教育を受けさせたいです。将来は、大学に通わせよう。」

Japan 日本



緊急支援

2016年4月に九州地方で発生した大地震の被災地域の熊本を中心に緊急支援を実施しました。

寄附：ベネッセ子ども基金 特別協力：株式会社チヨダ

▶『関東から10トントラックいっぱいにして☆熊本のママたちへ安心安全の食べ物をおくろう！』プロジェクト

MARIA プロジェクト主催のプロジェクトに賛同し、現地へ届ける物資購入費、輸送費の寄付や物資を集めました。熊本市立慶徳小学校をメインに、集めた救援物資や、アレルギーに配慮した食品の支給などを行いました。

▶くまモンプロジェクト

熊本で震災後入院している子どもたちが、少しでも安心して過ごせるように、くまモンのぬいぐるみをプレゼントする一般社団法人ドリーム・ラボ主催のプロジェクトに賛同し、ぬいぐるみの購入費やその他事業にかかる経費の寄付を集めました。

Mongolia モンゴル

草の根・人間の安全保障無償資金協力 フォローアップ事業



▶外務省委託事業

外務省がODAの一環として実施している草の根・人間の安全保障無償資金協力のフォローアップ事業として過去に実施したまたは実施中の案件の現状モニタリング、評価をするため、9月19日～24日までモンゴルを訪問しました。教育、医療分野の9つの案件を調査、モニタリングを行い、報告と提言をまとめ報告書を作成しました。

Study tour スタディーツアー



▶フィリピン

3月28日から4月2日までフィリピンを訪問し、中学生から社会人まで15名が参加しました。

現地パートナー団体のプレグ基金やフェアトレード生産者、マニラの貧困地域の訪問と子どもたちとの交流やボランティアを行うツアーを実施しました。海外旅行が初めての方もいましたが参加者はとても積極的に交流を行っていました。

会計報告

▶活動計算書

特定非営利活動法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン (単位:円)

科目	予算額(単位:円)		決算額(単位:円)		
	小計	合計	小計	合計	達成率
I 経常収益					
1. 会費・入会金収入					
正会員会費	300,000	300,000	240,000	240,000	80.0%
2. 寄付金・募金収入					
寄付金・募金	10,794,000	10,794,000	20,465,976	20,465,976	189.6%
3. 事業収益					
自主事業収益	10,295,000	10,295,000	4,808,422	4,808,422	46.7%
4. 助成金・補助金収入					
助成金	7,000,000	7,000,000	5,048,600	5,048,600	72.1%
5. その他収入					
受取利息	2,000		440		
雑収入	30,000		0		
為替差益	0	32,000	37,836	38,276	119.6%
経常収益合計		28,389,000		30,601,274	107.8%
II 経常費用					
1. 事業費					
(1)人件費					
給料手当	7,332,000		5,083,027		69.3%
法定福利費	850,000		538,113		63.3%
賞与	0		568,000		
人件費計		8,182,000		6,189,140	75.6%
(2)その他経費					
商品材料	260,000		210,860		81.1%
支援金(支払い寄付金)	3,580,000		2,341,460		65.4%
旅費交通費	8,284,360		3,813,609		46.0%
印刷製本費	714,000		403,298		56.5%
通信運搬費	1,190,900		530,603		44.6%
広報宣伝費	0		56,492		
消耗品費	190,000		539,286		283.8%
業務委託費	368,000		901,895		245.1%
研修・施設会場費	275,000		183,730		66.8%
地代・家賃	1,206,754		1,135,536		94.1%
水道光熱費	199,200		132,189		66.4%
保険	26,830		40,833		152.2%
諸会費	90,000		84,100		93.4%
支払い手数料	190,000		267,283		140.7%
返還金	0		266,136		
為替差損	0		79,091		
雑費	20,000		26,278		131.4%
租税 公課	70,000		52,900		75.6%
その他経費計		16,665,044		11,065,559	66.4%
事業費 計		24,847,044		17,254,699	69.4%
2. 管理費					
(1)人件費					
給料手当	¥1,670,000		1,399,536		83.8%
法定福利費	¥170,000		¥0		0.0%
人件費計		1,840,000		1,399,536	76.1%
(2)その他経費					
旅費交通費	¥93,240		178,001		190.9%
印刷製本費	¥230,000		90,341		39.3%
通信運搬費	¥300,000		95,706		31.9%
消耗品費	¥63,000		18,312		29.1%
業務委託費	¥0		122,947		
研修・施設会場費	¥0		45,910		
地代・家賃	¥247,166		283,884		114.9%
水道光熱費	¥40,800		32,851		80.5%
保険	¥0		¥0		
諸会費	¥0		¥0		
支払手数料	¥0		9,099		
雑費	¥2,000		0		
その他経費計		976,206		877,051	89.8%
管理費 計		2,816,206		2,276,587	80.8%
経常費用合計		27,663,250		19,531,286	70.6%
当期経常増減額		725,750		11,069,988	1525.3%
当期正味財産増減額				10,909,322	
前期繰越正味財産額				6,678,216	
次期繰越正味財産額				17,587,538	

- (注)1.特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。
 ・全体・フイルム重点事業が会費をたまご、事業が着工前の為、寄付額のバランスが大きくなり、繰越額増加へと繋がっています。
 ・事業費・人件費の一部を委託費として支払いました。留学生助成金の事業実施ができた分を返還金で計上しました。
 ・旅費交通費は、TAC参加者が少なかったこと、関西エリアの講演を分担できたため低い達成率になっています。
 ・為替差損は、インドルビーの価値が一部なくなったため、例年より額が多くなりました。今期から為替の科目を増やしました。
 ・管理費・来年以降、法定福利費は正職員の事業負担割合に基づき全体の1割配分いたします。
 ・データベース構築に伴い、委託費が発生しました。ボランティアベースで事業を支えてくださる方へ交通費を支払いました。

▶事業費内訳

1.重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日NPO法人会計基準協議会)によっています。

同基準では、特定非営利活動促進法第28条第0項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。

(1)棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は総平均法によっています。

2.事業費の内訳

事業費の区分は以下の通りです

科目	子ども主体	子ども活動応援	外部ネットワーク	海外自立支援	アドボカシー	合計
(1)人件費						
給料手当	0	1,069,152	291,215	1,130,383	2,592,277	5,083,027
法定福利費	107,622	107,623	107,622	107,623	107,623	538,113
賞与		56,800		170,400	340,800	568,000
人件費計	107,622	1,233,575	398,837	1,408,406	3,040,700	6,189,140
(2)その他経費						
支援金	0	0	0	2,341,460	0	2,341,460
商品材料	0	0	0	0	210,860	210,860
旅費交通費	23,397	1,523,773	96,630	1,468,100	701,710	3,813,609
印刷製本費	50,406	63,416	50,406	77,896	161,176	403,298
通信運搬費	42,589	44,171	42,670	101,473	299,701	530,603
広報宣伝費	0	2,300	0	54,192	0	56,492
消耗品費	21,040	309,433	21,386	162,637	24,790	539,286
業務委託費	0	5,915	0	762,519	133,461	901,895
研修・施設会場費	7,750	7,750	8,260	8,750	151,220	183,730
地代・家賃	227,107	227,107	227,107	227,107	227,107	1,135,536
水道光熱費	26,282	27,062	26,282	26,282	26,282	132,189
保険	200	31,573	200	8,660	200	40,833
諸会費	540	540	80,940	540	1,540	84,100
支払い手数料	31,123	31,505	31,483	139,380	33,771	267,283
返還金	0	0	0	0	266,136	266,136
為替差損	0	39,545	0	39,546	0	79,091
雑費	5,255	5,256	5,255	5,256	5,256	26,278
租税 公課	10,580	10,580	10,580	10,580	10,580	52,900
その他経費計	446,268	2,329,925	601,198	5,434,377	2,253,789	11,065,559
事業費計	553,890	3,563,500	1,000,035	6,842,783	5,294,489	17,254,699

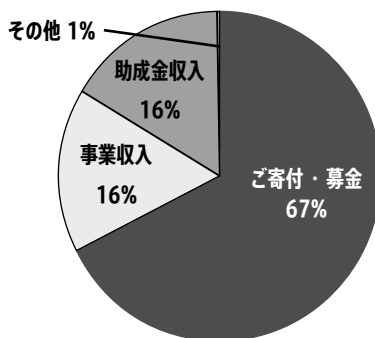
▶監査報告書



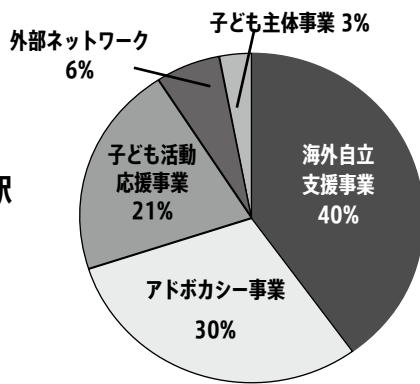
▶貸借対照表

2016年12月31日 現在		(単位:円)	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
現金・預金	346,462	未払金	1,480,667
小口 現金	139,845	預り金	385,204
普通 預金	18,030,798	流動負債 計	1,865,871
外貨	176,545		
現金・預金 計	18,693,650	正味財産の部	
(棚卸資産)		【正味財産】	
商品	311,054	正味財産 計	17,587,538
棚卸資産 計	311,054	(うち当期正味財産増加額)	10,909,322
流動資産合計	19,004,704	正味財産 計	17,587,538
【固定資産】		正味財産の部合計	17,587,538
(有形固定資産)			
什器・備品	612,028		
減価償却累計額	△ 272,853		
有形固定資産 計	339,175		
(無形固定資産)			
借地権	90,000		
電話加入権	19,530		
無形固定資産 計	109,530		
固定資産合計	448,705		
資産の部合計	19,453,409	負債・正味財産の部合計	19,453,409

▶収入内訳



▶支出内訳



ご支援・ご協力いただいたみなさま

フリー・ザ・チルドレン・ジャパンの活動へのあたたかいご支援、ご協力に、心より感謝申し上げます。

ご支援・ご協力をいただいた皆様を順不同でご紹介させていただきます。

助成金

ベネッセ子ども基金、日本財団、日本労働組合連合会愛のカンパ、世田谷区国際平和交流基金、モバイルコミュニケーション・ファンド、電通育英財団、庭野平和財団、一般財団法人まちづくり地球市民財団

寄付・協賛協力

桃山学院高校 SBS、聖ヶ丘太極拳同好会、聖明園後援会、川崎市立宮内中学校、東京都立世田谷総合高等学校、横浜雙葉高等学校、株式会社グッドサポート、Club Natural、株式会社ZEN、かみひとねっとわーく京都、水上金属株式会社、日本パプテスト厚木教会、111 ワンワンワン、横浜市立平楽中学校、鳥取県立鳥取東高校英語部、株式会社ワイズ・インフィニティ、医療法人 貴和の会、メット アシュランス、群馬つつじ会、株式会社チヨダ

活動協力

千鳥屋総本家株式会社、MARIA プロジェクト、一般社団法人ドリーム・ラボ

活動助成協力

JANIC NGO サポート募金（インド保健衛生支援）、JANIC NGO 緊急支援募金（熊本緊急支援）、Readyfor 株式会社（フィリピン盲学校支援）
そのほか、個人の方々から多くのご支援をいただきました。

メディア掲載

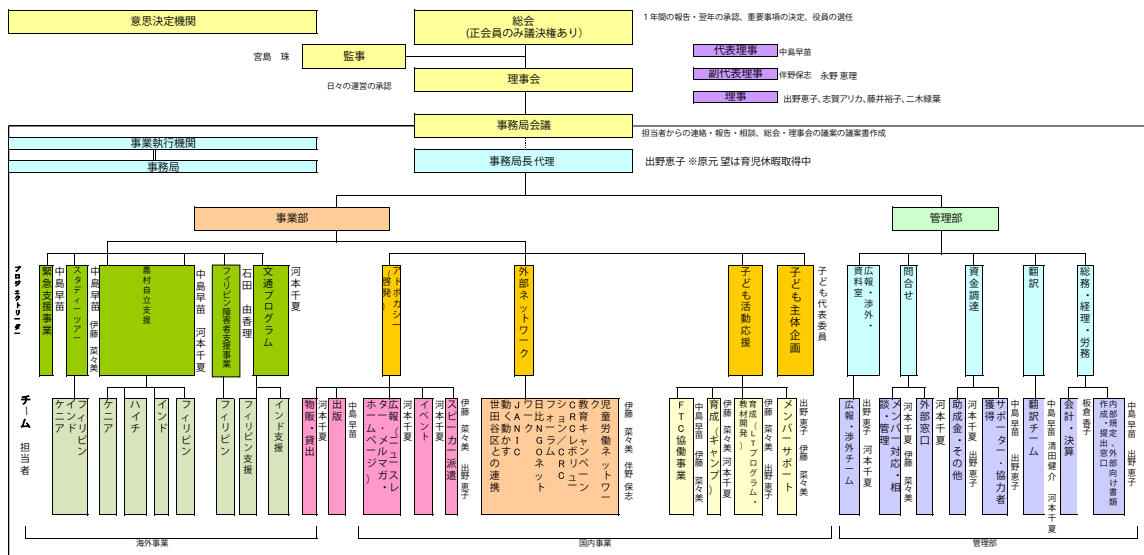
教科書：『ビジュアル公民 2015』、ONE WORLD3、社会科 公民

書籍：ポプラ社 きみが世界を変えるなら 世界を改革したこともたち

メディア掲載：YOMIURI ONLINE 大手小町、NTT 労働組合機関紙『あけぼの』、くまにちコム、Shoes Post、朝日新聞、ビッグイシュー日本版、毎日新聞WEB、弁護士ドットコム、朝日新聞、点字毎日 活字版、点字版

上毛新聞、まにら新聞、Yahoo! ニュース、オルタナ S

組織図・概要



特定非営利活動法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
設立年月：1999年1月1日

法人格

2004年9月21日東京都より「NPO法人」認証
2012年3月16日国税庁より「認定NPO法人」認証
2017年3月13日東京都より「認定NPO法人」認証
法人格：特定非営利活動法人

事務所所在地

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 6-6-5 3F

代表者：中島早苗

メンバー数：1,605名、正会員数：32名

役員・顧問役員：9名（理事2名、監事1名）、アドバイザー2名

事務局員：専従スタッフ6名、非専従スタッフ2名 インターン2名、事務局ボランティア5名、翻訳ボランティア20名

役員一覧

理事 中島 早苗（なかじま さなえ）
理事 伴野 保志（とも の やすし）
理事 永野 恵理（なが の えり）
理事 出野 恵子（いで の けいこ）
理事 志賀 アリカ（しが ありか）
理事 藤井 裕子（ふじい ゆうこ）
理事 佐藤 美沙子（さとう みさこ）
理事 二木 緑葉（にき あおば）
理事 監事 宮島 珠（みやじま たま）

アドバイザー

堀内 光子（ほりうち みつこ）氏

労働問題や女性の権利の分野での研究・専門家。文京学院大学大学院特別招聘教授及び公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム 理事長、地球憲章国際審議会委員、児童労働ネットワーク代表。また、2006年よりフリー・ザ・チルドレン・ジャパンの顧問として活動をサポート。

河合 将生（かわい まさお）氏

NPO・NGOの組織基盤強化やファンドレイジング、マネジメントのコンサルタントや、組織の協働・連携のコーディネート及び国際協力やキャリア育成に関する相談・講演を行う office musubime の代表

TOGETHER WE WILL *change the World*

特定非営利活動法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山 6-6-5 3F

TEL : 03-6321-8948 (受付 11 : 00-18 : 00)

info@ftcj.com www.ftcj.com